平成 28 年 9 月 1 日(木)
練馬区立開進第四小学校
校 長 佐 々 木 秀 之

得意なことを生かす楽しみに

校　長　佐々木　秀之

校庭、校舎に子供たちの元気のいい爽やかな声が戻ってきました。42 日間の夏休みが明け、今日から 1 学期後半がスタートします。子供たちにとってこの夏休みは、学期中にはできないかけがえのない多くの体験ができたと同時に、好きなことにとことん取り組んだり、今まで学習した内容を学び直したりするなど、得意なことを大いに伸ばすことができた夏休みだったことと思います。

得意なことに取り組む時、まず感じるのは学ぶ楽しみです。理科が得意な子供は、実験や観察を通して新しい発見に感動し、視野が広がります。サッカーが得意な子供は、思いのままにボールを操れるようになったことに楽しみを感じます。ピアノが得意な子供は、自分の腕前が上達し、美しいメロディーを弾けるようになることに喜びを覚えます。勉強であろうと、スポーツであろうと、音楽であろうと「まず学ぶことを楽しむ」ことはどれも同じです。

しかし、学習ということに目を向けてみると、子供たちは楽しんでいるとは言えません。現在の日本の子供たちの自宅での学習勉強時間は国際比較で最低の部類に属す一方、テレビ視聴時間やゲームを行う時間は非常に長いといわれ、子供たちの向学心は乏しいともいえます。子供たちが漢字の練習をしている時、私たち大人はよく子供たちに「漢字は頭がいいとか悪いとかは関係ありません。一生懸命やった人ができるようになるのです」と言います。子どもたちは我慢して頑張って漢字を書いています。私たち大人は努力を要求しています。もちろん努力は裏切りません。努力が実を結び、苦手だった事が得意なことに変わる事、できるようになることで楽しさを味わう事の方が多いともいえます。

得意なことができたら、そのままにしておいては、宝の持ち腐れです。本当の楽しさとは「得意なことを生かす楽しさ」だと思うからです。「自分の得意なことが、人のために生かされ喜ばれる」ということを感じた時、子供は「もっと喜ばれたい」と思い、勉強や練習に一層取り組むようになり、才能は一気に伸びていくのではないでしょうか。得意なことを、得意なままで終わらせない。得意なことを、誰かのために役立たせるという「生かす楽しさ」に気付かせることが大切なことかと思います。

「先生、夏休みの間にこんなことができるようになりました」「先生、虫を観察したらこんなことが分かりました」「先生、こんな絵を描きました」という子供たちの言葉に、「すごいね、見せて」「ほんと？教えてくれる」「上手だね、友達にも教えてあげて」と少し大げさと思えるくらい素直に認め、自分の得意なことを誰かのために生かすことで、本当の喜びや幸せを感じることができるよう夏休み明けのスタートを切りたいと考えています。

＊

先月のリオデジャネイロオリンピックで、日本人選手は「諦めないこと」「自信をもつこと」の大切さを私たちに教え、感動を届けてくれました。今月 7 日からは、23 種目、528 競技のパラリンピックが幕を開けます。日本人選手の活躍を期待しています。